

新春路政の展望

武井群嗣

子曰。天何言哉。四時行焉。百物生焉。天何言哉。改曆に際會したからとて、天地萬物俄かに改まり行政事象悉く變革を生ずるものではない。否、行政の制度及實際の如きは序を追ふて徐々に進展すべきものであらう。殊に豫算を伴ふものに至つては別に會計年度の更改を必要とする。従つて之を我が路政に就いて見るも、曆年の變移を機として急速に改革せらるべき何物もないであらう。が然し、年頭に際して過ぎにし一年の路政を回顧し、それを基礎として今年以後に於ける道路行政の動きを豫想することも、強ち無益の業ではなからう。

昭和八年に於ける出來事の中で何を措いても眞先に述べなければならぬものは、時局匡救事業の名に於て行はれた道路改良事業の一大飛躍であらう。其の金額に於て國費六千二百萬圓を投じ、事業主體は政府を始めとして全國津々浦々の町村にまで及び、改良せらるゝ道路は是亦國道を始めとして市道町村道の小なるものに至ると云ふ、凡そ路政開闢以來の大事業であり、殊に町村道路事業を

國庫が促進助成することは未曾有の事件である。六千二百萬圓と云ふ金額は他に何億萬圓と呼ばれる新事業の認められた今日から見れば敢て驚くに足らぬものかも知れぬが當時吾等の念頭には此の國費は外務、司法、商工、拓務等の各省所管經費よりも遙かに多いものであると知られ而かも其の全部が公債に依りて支辨せらるゝものであることに注目し、その額は國民一人當一圓の負擔に相當することを思へば、此の金は徒だや疎かに使へるものでないと覺悟せざるを得なかつたのである。

此の大道路事業の成績又は効果は今尙工事進行中のことであるから、之を判定することは出來ないが當時此の巨額の國費中其の過半を占むる三千四百萬圓と云ふものが主として町村道の改良を助成する爲に支出される點に付ては兎角の議論を惹起したものである。道路政策の見地よりすれば、國道の改良を先にして府縣道の改良を之に伴はしめ、然る後に於て町村道の改良助成に着手するのが順序であらう。従つて、道路改良事業の爲に巨額の國費が支出されるならば、先づ其の費用を以て主力を國府縣道の改良に盡すのが至當であり得策であると論ずるのが一派の意見である。而して此の議論は専ら道路政策の見地よりすれば疑もなく正當である。が然し、今回の事業が起興されるに至つた動機は、道路政策そのものよりも寧ろ所謂時局匡救政策の爲めであつて、其の爲には先づ町村をして土木事業を起興せしめ、その足らざる所は府縣をして、更に其の足らざる所は國に於て夫々時局匡救上適切なる事業を起興せしむる建前に置かれてあつたのであるから、如上の主張を貫くことの出來なかつたのは蓋し已むを得ざるに出でた所、寧ろ時局匡救の名の下に大道路事業を

起興し得たことを路政の局に當る者は路政の爲に之を喜び且感謝せねばなるまいと思ふ。

尙又茲に注意せねばならぬことは歐米諸國に於ける輓近の道路行政に於ても、地方道路改良の必要が叫ばれ國庫も之を促進助成するに至れる趨勢の見えることである。思ふに輓近道路改良の必要が朝野の間に強く叫ばれるに至つたのは、近時に於ける自動車の異常なる普及發達に對應せんが爲であるから、歐米諸國に於ける道路改良の主力が國內に於ける主要幹線道路即ち都市間を連絡する重要幹線道路及都市内に於ける主要街路に向つて注がれたことは當然の順序であらう。然るに現時交通界の情勢は地方道路の改良を放任し又は幹線道路の改良を完了するまで之が着手を見合はせる程の餘裕を存することが許されなくなつた。蓋し幹線道路の改良は之と脈絡連結する地方道路の改良を伴はざれば其の効果を十分に發揮し得ざると共に、現代社會の一大問題たる農村振興を策するの一助として、地方道路の改良を企てることは焦眉の急に迫られて來たからであらう。茲に於てか歐米諸國に於ける近時の道路改良政策は、主要幹線道路の改良にのみ偏することなく、之と並行して地方道路の改良計畫を樹て、政府も亦之が促進助成の途を講ずることを怠らざるもの如くである。果して然らば、我が國に於て時局匡救の爲に一大道路事業が全國的に起興され、而かも其の主要部を町村道路事業が占めたからとて、直に之を不急無用のものの如くに貶し去るのは時務を識らざるの甚しきものであると信ずるのである。

遮莫此の華かなる道路の黄金時代は今春を名残りとして遽に逝き去り復歸り來らざるやの觀を呈する節が見られぬでもない。昭和九年度に於ける道路費豫算の大削減が即ち其の前兆である。時局匡救事業が三年に亘り而して其の前後の兩年に於ける事業が細かるべきは當初より政府の聲明する所であるから、朝野共明年度事業費豫算の相當縮少せらるべきは固より覺悟の前であらう。が然し、之を道路事業に付前年度に比較して見るに、國事業四割、府縣事業五割五分、町村事業三割と云ふが如き削減は、恐らく何人も之を豫想し得なかつたことであらう。匡救事業は過去二年の實施に依つて略々其の目的を達し得たりと見たのであるか。それとも尙不十分ではあるが、他にそれよりも重要な事業の緊急施設を要するものがあるので、道路改良事業の如きを常に新規事業なりと見る財務當局者は先づ之を削減して他の費用に振り向けるの已むなきを認めたのであるか。何れにせよ、路政の局に當る者は明年度の事業を與へられたる豫算の範圍内に於て計畫し、以て時局匡救の實を擧げつゝ道路政策の實現に邁進せねばならぬ。それにしても、當初三年計畫で開始した工事を俄かに打切り、又は中止せねばならぬ場合が起きるであらう。その結果尻切れ蜻蛉の道路が隨所に見られぬとも限るまい。事業縮少の結果として就勞民の減少するは勿論、之に従事せしむる爲に新に採用した職員にして遽に其の職を去るの已むなきに至るもの無きを保し難い。此の間に善處して動もすれば生じ易き人心の不安を未然に防止することも、亦時局匡救の一部面を擔當する我等同志同僚の任務であると信ずる。

此の度の道路事業の全部が時局匡救の爲に始められたものであるならば、時局匡救と云ふ言葉の有つ内容に不明なるものがあることは別論として、兎に角時局匡救の必要の解消する共に其の爲にする道路事業の消滅を見ることは蓋し理論上當然であらう。去り乍ら道路改良事業は他の目的の爲にすることなく、それ自體に一の獨立せる目的と使命とがある。近時異常の普及發達を見たる自動車の有する機能を遺憾なく發揚せしむる爲に各國競ふて道路の改良に力を注ぎ、而かも從來主要幹線道路の改良に偏重したる歐米諸國が漸次地方道路の改良を促進助成するの實狀に在る點を考察し、此の形勢にして今後に於ける我が道路政策の趨向を暗示するに足るものありとするならば、吾等は將來に於ける道路行政を道路政策本來の立場に於て按配せねばならぬ。従つて所謂時局匡救の必要が解消したる曉に於ては、専ら道路行政の見地に於て道路改良事業を起興することに専念するの覺悟を要する。尙之を實際の場合として考へて見るに、多年翹望の結果漸くにして實現を見たる府縣道や町村道の改良助成を單なる時局匡救事業打切の標語を以て俄に廢止し得るかどうか。又打切つてもよいものかどうか。此は深甚なる考慮を要する重大問題の一項であらう。

昭和八年に於ける他の重大事件の一は土木會議の創設と其の議決に依る第二次道路改良計畫の樹立とである。由來土木事業は道路河川港灣等の部門に分れ、其の施設經營する所亦夫々特異の存するものであるが、其の關係する所國利民福に至大の影響を有すること其の間何等の逕庭なく、之を民

心安堵の策と爲すことは有史以來王朝の百官有司を始め封建の大藩諸侯皆然り明治以降の政府亦力を茲に注ぎ來れることは叙説を俟たぬ所である。従つて道路河川港灣等の部門に分るゝ土木事業を統一綜合的に調査審議し之が法制を編み施設の完備を期し以て所謂土木國策を樹立することは當に喫緊の要務であらねばならぬ。此の意味に於て今回創設されたる土木會議は嘗て存在したりし道路會議及臨時治水調査會の復活と臨時港灣調査會の合併であると見るの外に此の三者を包括統合し衆智を集めて有機的に土木百般の重要事項を調査審議する一大諮問機關であることに重要な意味が含まれてゐると思ふ。依つて吾等は本會議が今後健全なる發達を遂げ重要な土木國策の審議に當られんことを衷心より庶幾ふと共に假令將來行政整理の嵐が吹き荒ぶ時に遭ふても巍然たる存在を持續されんことを祈るものである。

斯かる大使命を持つて生れ出たる土木會議は逸早く第二次道路改良計畫の樹立に努め一の重要な大議決を敢てした。抑も我が國の道路改良に關しては一の定まれる方針がある。大正八年道路會議の議を経て決せられたものが即ちそれであつて政府は大正九年度以降三十年間に亘り國費二億八千二百八十萬圓を支出して國道及特殊の事由ある府縣道並に六大都市の街路の改良を助成すべしと謂ふのが其の内容であるが爾來此の方針に則つて道路改良計畫を實施し來つた成績と、近時急速に普及發達したる自動車の機能を遺憾なく發揚せしむる必要とに鑑み茲に之を改訂して新なる道路改良方針を樹立するに至つたものである。而して其の内容は前號の本誌に紹介されてあ

るから茲に再録することを避けるが、其の要領を約言すれば、今後二十箇年に亘り七億七千六百餘萬圓純國費六億二千六百餘萬圓を支出して國道の全部を政府直轄の下に改良すると共に、府縣をして指定府縣道の全部を改良せしめ之が工事費に對して原則として其の三分の一を補助するものと定めたものである。

國費六億二千萬圓と云ふ金は決して少額ではない。されば、土木會議々員中從來は勿論將來に於ても道路改良の必要を最も希望すと信すべき部局に在る者の口から意外にも、少し遠慮してはどうかと云ふ意見さへ出たものである。が然し、是亦意外にも他の議員の口からは、最初に當局の示した参考案の一部には姑息な計畫があるとの理由で其の改訂を求め、其の結果數千萬圓の増額を見るに至つた事實さへもある。何れにせよ、六億餘萬圓と云ふ金は並大抵の額ではない。然し、それは二十箇年に亘りて支出すべき額であるから、之を各年度に割當てれば一年の支出は三千餘萬圓となる譯であつて昭和八年度の道路費豫算が國費六千二百萬圓なりしに想到すれば此の計畫は決して無謀膨大なるの譏を受くべき性質のものではないと思ふ。そは兎に角吾人は此の計畫遂行の爲に要する財源を専ら道路公債法に基く公債其の他の公債財源に依りて支辨し、且つ政府に於て直轄施行する國道改良費は之を繼續費と爲し以て中途に於て變更を加ふることなく必ず所定年度内に事業の完成を圖り本計畫の實現を期せられむことを望むのみである。

第二次道路改良計畫に關する特別委員會並に其の本會議に於て屢々論議を繰返した問題の一に國道路線の認定標準に關するものがある。現行道路法に依れば國道の路線は主として軍事の目的を有するものを除くの外、孰れも東京を起點として神宮、府縣廳、師團司令部、鎮守府等の所在地又は樞要なる開港場に達する路線に就き主務大臣に於て之を認定するの定であつて、神宮に達する路線は別とし、樞要なる開港場に達するものを除けば他は孰れも其の形式に於て所謂行政道路の部類に屬するものである。斯かる規定が國の交通幹線たる國道の認定標準として適當なりや否や。又樞要開港場に達するものと雖其の起點を一律に東京と定めることが果して當を得て居るや否やの問題があらう。然らば之を如何に改正すべきか。恐らく幾多の答案が提出され得るであらうが、少くとも現在府縣道の認定標準として其の第一號に掲げられてある府縣廳所在地相互間を連絡する路線の如きは眞先に採擇の候補となることではあるまいか。そは兎に角國道路線認定標準の改正擴張は今後に於ける道路法制改正問題中の重要なる一事項として關係各方面に於て盛に論議検討されることであらう。

そこで私は此の點に關聯を有する歐米諸國に於ける輓近の道路行政の趨向を一瞥しやうと思ふのであるが、概して言へば、道路の管理經營が次第に國又は上級の地方行政廳に統一移管される實況に在ると見られる。評言すれば我が國の道路に國道府縣道、市道及町村道の種類及等級がある様に歐米諸國の道路にも各國其の名稱こそ異なれ、何れも主要幹線道路と地方道路との區別があり、又各

種道路の間に幾つかの等級があることは特に説く迄もないことであるが是等諸國に於ける道路行政の近時に於ける著しき變革の一是、下級道路が次第に上級道路に昇格移管されることであつて佛國に於て從來存したる町村道等の下級地方道路を擧げて府縣道に編入移管したるが如き英國に於て一九三〇年四月一日以降村區に於ける總ての道路並に町區及市區に於ける有級道路の管理權を擧げて府縣會に移管し爾後之を府縣道と稱するに至つた如きは其の著しき實例である。又之と關聯して府縣道の中級道路を國道に昇格し又は昇格せずして政府自ら其の中の主要幹線に屬するもの施設經營に當る傾向のあることも亦著しき變革の一であつて佛國が曩に總延長三萬杆の府縣道を國道に編入したるが如きは前者の部類に屬するし英國に於て首都の幹線街路工事を政府が直轄施行するが如きは後者の一例であらう。因に國道の工事を政府が直轄施行する國々は獨佛伊、蘭等諸國概ね然りと言ふことが出來よう。

私は是等の趨勢に照し考へて見ても我が國に於ける國道の路線認定標準を改めて更に多くの國道路線を新に認定することも又國道工事を直轄施行するの制度を確立することも共に現代交通の情勢に鑑み必要適切なる改革であると思ふ。従つて之と關聯して自然に考へ得らるゝ町村道の府縣道編入問題も亦或る程度まで之を肯定するのが當然であると思ふ。殊に所謂時局匡救の爲にする町村道の改良工事にして完成したるもの尠からざる場合に於て、其の中の主要なるものを府縣道に昇格するが如きは實は此の事業を開始する當時に於て既に豫見した所でもある。が然しそれが

爲には茲に留意を要する一の條件がある。それは外でもない。新に認定すべき府縣道に對する維持修繕費を既認定府縣道のそれと同率以上に府縣豫算中に計上することである。若し此の條件を履行することなくして濫りに府縣道の新認定を敢てせんか遂に現在にても餘り上等でもない既存の府縣道を實質的に低下することの結果を招來するに至るべきは火を見るよりも明かであるからである。

○
昭和八年に於て全國的に行はれた仕事の中で匡救事業に次ぐものは、春秋二季を期して實施したる道路交通情勢の調査であらう。言ふ迄もなく、此の仕事は政府事業としては第一回の試みであるが嘗て道路改良會が主催となつて各地方に實施されたものを第一回とすれば、正に其の第二回に當るものである。而して第一回の調査日數が秋季三日間なりしに比すれば、今回の春秋二季各三日間は相當效果的なる事業であると言ふを憚らないが、然し之を彼の英國に於て一年を通じ四十二日に及ぶ念入りの調査を爲すに比較すれば尙十分なりとは稱し得ないであらう。が然し、此の春秋二季に於ける同一地點の交通情勢調査の結果が集計され圖表となつて世に現れた曉に於ては、それが將來に於ける國道及重要府縣道以下の道路網及道路改良計畫を樹つる場合の有力なる參考資料となるべきは疑を容れざる所であると共に、鐵道、軌道、自動車等の運輸業者も亦其の事業の經營資料として此の調査の結果を利用することは望ましき所である。

私は此の機會に於て這般の全國道路交通情勢調査に直接又は間接に關與されたる當局者及當局者の人士に對し、二重の意味に於て甚深なる敬意と感謝の念とを捧げんと欲する。其の一は春秋二季共に多忙なる連續三日間を早朝より晩夕まで長時間に亘り獻身的に該調査を實施されたる勞苦に對してであつて其の二は恐らく次回の全國的調査が彼の國勢調査の如く凡そ五年を経過したる後にでもならなければ再び行はれまいかと思ふからである。固より交通情勢調査の如きは英國に於けるが如く之を隔年位には實施したいと思ふ又實施すべきものと考へるが我が國の現状に於て之を望むことは聊か無理であらうと思ふ。果して然らば昨年の調査に従事したる人々は今後五年も全國的には實施することなく、従つて多年の間貴重有益なる參考資料に供せらるゝの己むなきに至るべき仕事に參與されたることに意味を有つこととなるのであらう。

最後に昭和八年の出來事として彼の道路大會を擧ぐることを忘れてはなるまい。之は道路改良會の新しき試みであり、而して相當の効果を收め得たるものであるが、其の實況は夙に本誌の報ずる所であるから、今茲に重ねて言ふの愚を敢てしないであらう。此の大會も亦第一回と銘打つて開會されたが、扱て其の第二回は何年に何處で開催されることになるだらうか。總て未知未定の問題であるが、少くとも昭和九年には開かれそうにも思はれない。固より吾人は可及的速かに第二回の開會されることを望むものであるが、それには又相當に機運の熟するのを待つ必要もあらう。若し夫

れ此の道路大會の後に來るものに就ては、吾人既に本誌同大會記念號に其の二三を述べて置いたから茲にそれを省略することとする。

鐵道と道路の發達

野村兼太郎

未だ蒸氣力の發見されなかつた頃、鐵道の發明されなかつた頃、道路が交通機關として最も重要視されてゐた。英國で産業革命の起り始めた第十八世紀末から第十九世紀の初期に、道路改良が行はれた。そして最初の道路らしい道路が出来た。次いで鐵道の發達と共に、道路は運輸機關として、やゝ閑却されてゐた觀があつた。殊に遠距離の道路についてその觀が著しかつた。然るに最近自動車の使用が盛んになると共に、道路改良の問題が再び一般に認められるやうになつて來た。

自動車が比較的安價に得られ、一般的需要が高まると共に、それから生ずる種々なる交通上の問題が一般人の注意を喚起した。狹隘な道路に乗り入れる危険、雨天泥濘の際の交通人の迷惑等々、それ等が當然道路の改良を促がした。先づ大都市内の道路から始まり、次いでそれ等をつなぐ幹線道路